

コロナ禍における障害学生への 合理的配慮と修学支援

佐々木 銀河(筑波大学 人間系 准教授)

講師略歴

博士(障害科学)。筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリア(DAC)センター助教、准教授を経て、2019年10月より現職。専門は障害学生支援で、筑波大学DACセンター発達障害学生支援(RADD)プロジェクトの専門アドバイザーとして、発達障害学生支援モデルの構築と展開を進めている。また、教育関係共同利用拠点「ダイバーシティ&インクルージョン教育拠点」の運営委員およびスタッフとして、全国の大学等への障害学生支援に関する普及啓発にも取り組んでいる。主な著書(いずれも共著)に、『よくわかる!大学における障害学生支援』(ジヤース教育新社、2018)『合理的配慮ハンドブック:障害のある学生を支援する教職員のために』(日本学生支援機構、2018)。2022年4月科学技術分野の文部科学大臣表彰 科学技術賞(理解増進部門)を受賞。

プログラム概要

コロナ禍となり、オンライン授業が各大学等で行われるようになりました。大学や授業ごとに様々な形態で行われるオンライン授業において障害学生のより良い学びはどのような方法でもたらされるのでしょうか。

このプログラムでは、講師が行ったオンライン授業における障害学生の修学状況調査の結果を踏まえて、障害学生におけるオンライン授業のメリット・デメリットを解説します。また、授業のユニバーサルデザイン化に向けた具体的な対応例を紹介します。合わせて、改正障害者差別解消法により私立大学においても法的義務となる合理的配慮について検討プロセスや主要な考え方を紹介します。参加者が自校で活用できるように講義の中では支援技術など具体的な対応例を可能な限り多くご紹介します。

グループワークでは障害学生からの申し出事例を講師から提供し、合理的配慮の検討を参加者同士で行います。自校における現状や対応状況なども共有する機会になればと考えております。

なお、このプログラムでは身体障害から発達・精神障害までを取り扱います。

準備物・事前課題

特になし。

主な受講対象者

- ・授業担当教員
- ・障害学生支援に関係する教職員
- ・関心のある教職員

到達目標

1. 障害者差別解消法により大学教職員に求められることを説明することができる。
2. オンライン授業を障害学生が受ける場合の課題や対応例を1つ以上、説明することができる。
3. 合理的配慮の検討が必要な障害学生に対して、対応方法を1つ以上、提案することができる。
4. 障害学生への組織的な対応について、自校の課題を説明することができる。

日時

8月26日(金)12時30分～14時30分